

## 学位論文審査基準

2012年1月28日 研究科教授会決定

2012年4月1日 施行

2018年2月27日 改正

本学学位規則が求める申請要件を満たし、本研究科および各専攻が定める手続きの下に提出された学位申請論文は、以下に記す基準に従って審査される。

### 1. 修士課程：修士論文

#### 1.1 修士論文提出までの手順

修士の学位申請をしようとする者は、修士論文提出までに、総合演習において一定回数の研究報告を行い、指導を受ける。それをもとに題名登録を行い、指定期日までに修士論文を提出するものとする。

#### 1.2 審査体制

本研究科は、修士の学位申請に対しその受理の可否を決定し、審査に当たる主査1名、副査1名を定める。学位申請者は、以下の論文評価の各項目について、主査と副査による査読、および口頭試問を受ける。基準の各項目は、提出された当該論文の目的と性格に応じて適宜、用いるものとする。

#### 1.3 修士論文評価の基準

(1) 設定された問題の意義

テーマ設定、問題の立て方などが学問的に意義深いか。

(2) 先行研究のレビューと位置づけ

当該テーマの研究に最小限不可欠と認められる文献・資料などが客観的、学術的立場から参照され、批判的検討がなされているか。

(3) 研究を方向づける理論枠組みと方法論

一定の合理的な方法論に拠って論述されているか。

(4) 収集されたデータ（情報）の質と量

社会調査や資料収集、聞き取り等が、研究テーマとの関連で必要十分な形でなさ

れているか。データ（情報）の整理・処理は適切になされているか。

(5) 導出された分析結果

学術的価値のある結果が導出されているか。設定されたテーマについて、必要にして十分な論述内容をもっているか。

(6) 論文の論理的構成

設定された理論的枠組みと方法に則って、首尾一貫した論理で論文全体が構成されているか。

(7) 論述の明解さと形式の整合性

表現や用語が論文にふさわしいレベルに達しているか。記述の仕方は明解でわかりやすいものか。参考文献，注釈の取り扱いにおいて，学術論文に必要とされる形式が整っているか。

(8) 学術的貢献

論文の成果が当該学問領域における研究業績・知見を増すものであるか，またはその基礎となりうるようなデータを提供しているか。

(9) 言語・外国語の扱い

対象とする土地・文化の言語の扱いは適切であるか。外国語文献・資料は，既存翻訳利用であるのか，独自の翻訳であるのかの別を明らかにしているか。

## 2. 博士後期課程：博士論文

### 2.1 博士論文提出までの手順

博士の学位申請をしようとする者は，博士論文提出までに，総合演習において一定回数の研究報告を行い，指導を受ける。それをもとに題名登録を行い，指定期日までに博士論文を提出するものとする。博士論文を提出するまでに，申請者の論文が，査読付学術論文誌およびそれに準ずるものに第一著者として1篇以上が掲載されている（または掲載が決定している）ものとする。ただし，研究ノートなど論文以外の区分で掲載された研究成果が査読付論文と同等の水準にあると考えられる場合，社会学研究科教授会に申請の上，要件を充たすと認められることがある。

### 2.2 審査体制

本研究科は，博士の学位申請に対しその受理の可否を決定し，審査に当たる主査1名，副査2名を定める。学位申請者は，以下の論文評価の各項目について，主査と副査による査読，および公開の口頭試問を受ける。基準の各項目は，提出された当該論文の目的と性格に応じて適宜，用いるものとする。

## 2.3 博士論文評価の基準

- (1) 設定された問題の意義  
テーマ設定，問題の立て方などが学問的に意義深いか。
- (2) 先行研究のレビューと位置づけ  
当該テーマの研究に不可欠と認められる文献・資料などが客観的，学術的立場から参照され，批判的検討がなされているか。
- (3) 研究を方向づける理論枠組みと方法論  
一定の合理的な方法論に拠って論述されているか。
- (4) 収集されたデータ（情報）の質と量  
社会調査や資料収集，聞き取り等が，研究テーマとの関連で必要十分な形でなされているか。データ（情報）の整理・処理は適切になされているか。
- (5) 導出された分析結果  
学術的価値のある結果が導出されているか。設定されたテーマについて，必要にして十分な論述内容をもっているか。
- (6) 論文の論理的構成  
設定された理論的枠組みと方法に則って，首尾一貫した論理で論文全体が構成されているか。
- (7) 論述の明解さと形式の整合性  
表現や用語が論文にふさわしいレベルに達しているか。記述の仕方は明解でわかりやすいものか。参考文献，注釈の取り扱いにおいて，学術論文に必要とされる形式が整っているか。
- (8) 学術的貢献  
論文の成果が当該学問領域における研究業績・知見を増すものであるか。広く学術的に共有されうるような一般性，普遍性をもった知見を提供しているか。
- (9) 言語・外国語の扱い  
対象とする土地・文化の言語の扱いは適切であるか。外国語文献・資料は，既存翻訳利用であるのか，独自の翻訳であるのかの別を明らかにしているか。

以上